

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
環境都市系事務室内
平成 26 年 8 月

第28号

会長挨拶

建設会会長

中尾 恵昭

昭和五十年卒



一昨年十月建設会会長に就任以来、早や一年数カ月が経過しました。その間建設会の皆様には何かとご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。特に昨今の厳しい状況の中、何かと工夫を凝らし会員の確保・維持、若い世代の参加者拡充に力を注いで頂いた支部会長を初め幹事の方々には本当に感謝いたします。

二〇二〇年の東京オリンピック、パリオリンピック、リニア中央新幹線など建設業界にも明るい話題が出てきています。

さて、昨今の度重なる経済政策の成果か、「もはやデフレ状況で無く、デフレ脱却に向けて着実に前進している」との文字が新聞紙上でも見受けられるようになりまし

その一方でバブル崩壊後の建設需要の落ち込み、二十年近くにもわたる建設投資額の減少もあつてか、建設業の人手不足、資材不足などが顕在化しており、特に関西は深刻な状況にあります。建設業の担い手確保などの対策を盛り込んだ「改正公共工事品質確保促進法(品格法)」を初めとする三法が五月末の衆議院本会議で全員一致で可決

成立しましたが、当分建設業界を巡る環境は依然厳しい状況が続くものと思われ、将来への不安は拭えません。

高齢化を大量に迎えた社会インフラの維持管理、長寿命化、更新も喫緊の課題で、更には高い確率で発生が予想される首都直下地震や南海トラフ地震への対応も急がなければなりません。東日本大震災から三年が経過し、全般的には一定のインフラ復旧は進んでいるものの、未だ復興はもとより復旧も進んでいない地区も多々あります。この未曾有の大震災では種々の議論がなされ、本来あるべき復旧復興に関して、制約がある状況下にあつてはガバナンスが発揮できないといった土木行政の限界が問われてもいます。

このような折、土木学会は本年十一月に創立百周年を迎えます。

現在、「豊かなくらしの礎をこれまでも、これからも」をキャッチフレーズに全国展開をしており、秋には「百周年宣言」が行われます。この機会に土木の原点に立ち帰り、その特徴である総合性、社会性を認識し、我々が担うべき使命と責任を果たすことが求められます。

土木学会初代会長古市公威は就任演説で「土木技術者は『指揮者を指揮する人』『將に將たる人』たかねばならぬ」そして会員に「研究の範囲を縦横に拡張せられんこと」「その中心に土木あることを忘れられざらんこと」と訴えています。まさにこれはこの難局を乗り越切る上で土木は矜持と権威を保ち、数多い分野の中での連携の核・コーディネーターとしての責務を果たさなければならぬというメッセージであり、今まさにそれを再認識すべき時でしょう。

さて、今年は理工学部が衣笠からびわこ・くさつキャンパス(BKC)に拡充移転してから二十年目となります。一方土木科・土木工学科は現在環境都市系三学科に発展し、今回この節目に建設系の新研究棟「トリシア」が建設され、三学科が集約されました。土木・環境・建築のより一層の一体化・結束を期待します。

この機会に大学では「びわこ国際人材育成推進プログラム」を展開し学生の教育環境の向上を目指しており、建設会としてもその趣旨に全面的に賛同しております。会員各位には「二十周年記念募金」に格段のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学系長のご挨拶・学系の近況ご報告

環境都市学系 学系長

建築都市デザイン学科

平尾

教授

和洋



建設会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また平素は会運営に多大なるご協力賜り、改めて御礼申し上げます。

二〇一四年度の学系長を務めさせて頂いております。平尾@建築都市デザイン学科です。不肖、六年振りの重責となりますが、会員の皆様方には、これまで同様のご交誼・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、思い返しますと、この六年間、様々な出来事がありました。未だ記憶に新しい東日本大震災とその後の復興事業、これに伴う防災意識の向上と各地での取り組み、職人不足と建設コストの高

騰、政権交代と景気回復・消費増税、二〇二〇年東京オリンピック開催決定など。これらは全て、建設業界に少なからず変化を与え続けています。社会基盤を支える土木・環境・建築都市分野の仕事は、必然的に世情の変化と共に歩むことは自明ですが、教育・研究機関としての大学もまた、次世代を担うべき学生を社会に送り出すという意味において、移り変わる情勢に機敏に対応しつつ、次のステップに向けて変化を続けております。

そうしたご報告の第一として(恒例ながら)旧教員の移動と、新任の先生方のご紹介をさせていただきます。二〇一三年度末をもちまして、建築都市デザイン学科の

山田悟史先生が、五年間の助教任期を終えられ、中央大学にご栄転されました。先生には建築情報分野の教育・研究に加え、学系ホームページの取りまとめ、学科イヤーブックの編集など、大変ご尽力頂いた経緯があります。この場をお借りして、御礼申し上げます。と思います。

他方、二〇一四年度よりご着任・ご昇進された先生方は次の方々です。

- 都市システム工学科… 野村泰稔先生(講師・建設プロジェクト・マネジメント研究室)
 - 環境システム工学科… 佐藤圭輔先生(准教授・流域環境情報研究室)
 - 建築都市デザイン学科… 源城かほり先生(講師・居住環境研究室)
 - 加戸啓太先生(助教・建築情報研究室)
- 各先生方の研究室名を見て頂きますと、かつての学系構成とは違つ

てきている部分がお分かり頂けるのではないのでしょうか。こうしたところにも変化の兆しが表れつつあります。

第二のご報告は、新しい学系の建物の完成です。一部の方にはご周知と存じますが、数年来、わが環境都市学系は、三学科が三棟の建物に分散しておりました。学系の集結は予ねてよりの課題でしたが、二〇一四年度四月をもちまして、新棟「トリシア」への移転が相成りました。五月には理事長・総長はじめ関係各位列席のうえ「トリシア竣工式」が、六月には「理工学部BKC移転二十周年」を記念した「サンクス・デー」が開催されたところです。

建物本体は、此迄の立命にはない「中庭型のオープンな構え」となっており、昼休み時間帯などには、学生諸君が語らう風景などが見られます。三学科の教員同士も、これまで以上に顔を合わせ

では、環境時代を見据えた研究活動の一環「グリーン・ビルディング・コンソーシアム」が始動しております。また二〇二〇年に向けた取り組みとして、近年準備してきた「アジアに向けた防災教育(歴史都市防災分野)」「学生向け海外環境スタディ(環境分野)」をベースとしたグローバル人材育成の場としても発展が期待されています。OBの皆様方におかれましては、機会がございましたら、(学系ホームページをご参考の上)お気軽にご来訪いただけますと幸いです。

学外の皆様と情報交換すること、学内の教員・学生にはこの上ない刺激・勉強の機会となります。会の皆様におかれましては、今後の「土木・環境・建築都市三分野の融合」を旨とした活動にご期待頂きますと共に、今後とも教員・学生共々に変わらぬご支援をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

会員の声

造る時代から 守る時代へ



京都支部副支部長
中村 浩
昭和四十年卒

京都市の技術公務員として、三十八年間の仕事を終えてから早や十一年の歳月が過ぎました。六年前には第二の職場の勤めも終え、いまは趣味の合唱や日本画の制作のほか、男の料理の腕を上げることを楽しんでます。七十歳を越えたいま、体力の衰えをカバーすることは難しいですが、今年から近くのフィットネスクラブに通い始め、私の体力に合った筋トレとストレッチに汗を流しています。「継続は力なり」とはよく言ったもので、週二回のクラブ通いを半年近く続けているうちに、長年にわたり悩まされていた肩こりと腰痛が解消し、日々の行動が軽快になるのを自覚できるようになりました。改めて年齢に応じた体の柔軟性を維持することの大切さを痛感している今日この頃です。

いることが、自動車専用道路における大きな事故や、毎年のように頻発する自然災害によって明らかになっていきます。とくに最近では、いつ発生するか分からない大型地震にも対応できる強靱さが、これら多くの土木構造物に求められています。鉄道や道路事業者をはじめ国や地方では、それぞれが管理する施設の点検と、それらが設置の中長期にわたる耐震補強や老朽化修繕の実施を計画され、すでに実行に移されています。私の住む京都市においても、後輩の諸君が「市民のいのちと暮らしを守る防災や減災対策を充実強化する」という基本方針のもと、日夜仕事に取り組んでおられ、たいへん心強く思っています。

私達土木技術者は、今日まで半世紀以上にわたり、営々として都市基盤をはじめ数多くの公共土木施設を造ってきましたが、道路ストロークをはじめ地域住民の日常生活を支える公共土木施設が、常にその機能を発揮することができるよう、長寿化対策として、効果的で効果的な維持修繕を実施し続けていかなければならない時代に入っています。

岐阜県建設会と 中山道鵜沼宿



岐阜県建設会顧問
可児 幸彦
昭和四十二年卒

昨年、本会副会長の福山益生氏が示されたように岐阜県建設会は野村会長、川島会長、部田会長のもとで徐々に着実に進歩を遂げてきた。発足から六年目の平成二十四年度には「中山道鵜沼宿」を取り上げていただいた。岐阜県建設会と歴史がつながった一瞬であった。

中山道は古代から重要な道であった東山道をもとに江戸時代の五街道のひとつとして整備された。全長は五三四キロ、宿場は板橋から守山まで六十七宿（東海道合流する草津・大津宿を含めると六十九宿）が設置されており、岐阜県内には十七宿があった。

五街道は他に奥州道中、日光道中、甲州道中、東海道があるが、中山道は太平洋側を通る東海道とともに江戸と京を結ぶ主要な街道で、木曾路を通ることから木曾街道とも呼ばれていた。また、「木曾の棧、太田の渡し、碓氷峠が無くばよい」とうたわれる難所をはじめ険しい山間部を抜ける起伏の多い道であった。しかし、河川の増水による川止め等の障害が多かった東海道に比べると、予定通りの通行が可能であるという利点から、利用価値の高い街道であった。



平成25年度 立命館大学岐阜県建設会 総会

第三次で達成しており、当時の日本の沿海における諸外国の動きから次第に日本全土の測量へと変化し、十次測量までで完成している。その測量の精度は当時世界一といわれるほどのものであり幕府は勿論世界を驚かせた。測量は誤差との戦いであるので、当時その誤差退治に北極星他の恒星を観察した緯度の測定、遠い山等の目標物を設定する方法が採られた。この地図の素晴らしいところはシーボルト事件を生むほどのものであった。そのおかげで海外に日本の文明の高さを知らしめ、このことが、日本が東南アジアで唯一「植民地にならなかった」理由と考えることもできるようなのである。

関東建設会より



関東建設会会長
肥後 満朗
昭和四十九年卒

の銀河系内恒星、惑星の観測「天測と土木の歴史に夢多かれと祈りつつ募金を振り込んだ。」

一九七四年土木工学科卒の肥後でございます。昨年の七月、前任の江間会長（一九七〇年卒）から引継ぎ関東建設会の会長に就任いたしました。在学中は著しく出席頻度が少なく、卒業後もたまに同窓会に出席する程度で、学校とはほとんど縁がなかったのですが、米谷副会長（一九八二年卒）の会長就任要請をすんなりと引き受けました。後で、「なぜ引き受けたのだろうか？」と自問自答したのですが、「そろそろ何か人の役に立つこともやらなさい」といった気持ちで働いたようです（歳のせいでしょうか？）。

関東建設会は、「ビジネスとプライベートのネットワーク構築」を目的として掲げ、会員名簿は八三四名で構成されております。七月の総会に始まり、隔月の定例会、秋のゴルフコンペ、その他随時の交流、が活動の主体です。隔月の定例会では、幹事会その他に、会員が交替で講師を務める技術発表をやっております。ご自分の得意な分野について三十分程度話してもらおうわけですが、今まで、新しい地盤改良工法、海外工事の経験、コンクリートダム、新しいシールド工法など、豊富な経験に基づく発表を大変興味深く拝聴いたしました。そして、勉強の後には、米谷副会長の先導で、赤坂付近での懇親会へと流れていきます。このような活動ですが、役員一同、もつと若い人にも参加してもらって活性化させたいと思っております。「若い人たちが喜んで建設会に参加してくれるためには、どのような活動が良いのか？」常々議論しているのですが、決定的な解を見出せておりません。当面は、定例会を充実させ、参加された方々が楽しめる場を作ることを第一に活動を継続していこうと考えております。

土木遺産とミニ二電車



建立会副会長
杉山 利彦
昭和五十四年卒

理工学部土木工学科を卒業して三十五年が過ぎました。学生時代を振り返ると立命館在学中に学んだことは、当然のことですがその



後の私に大きく影響を与えてい
ます。私は橋梁工学に興味を持
ち、卒業研究も小林敏士先生の橋梁卒
研でした。卒業後、建設会社に入
社して設計部門で勤務することと
なり、多くの橋梁設計を担当して
きました。また、子供のころから
鉄道好きだったこともあって、休
日にはローカル線や廃線跡を訪ね
歩いていました。やはり目に留まる
のは橋梁です。近代的な橋梁より
は、むしろ明治から昭和初期のレ
トロな橋や産業遺産となっている
年代物の橋梁を好んで訪れます。

ローカル鉄道の橋梁探訪を続け
る中、私は五年前に三岐鉄道北勢
線の「ねじり橋」に出会いました。
三重県桑名市の西桑名駅からいな
べ市の阿下喜(あげき)駅までを
結ぶ北勢線は、全国にたった二路
線しかない軽便鉄道と呼ばれる軌
間が七六二ミリしかない珍しい鉄
道ですが、「ねじり橋」も土木遺産
として非常に貴重なものです。六
把野井水(江戸時代の用水路)の

上を交差角四十五度という鋭角で
鉄道が交差するアーチ橋で、基礎
部を井水に平行に造ったためアー
チ面は強烈にねじれています。下
から見上げると、ねじれて積まれ
たコンクリートブロックの目地が
天を翔ける竜の鱗に見えて畏怖の
念すら抱きます。ねじり橋の近
くには兄弟橋「めがね橋」があり、
両方とも土木学会の選奨土木遺産
です。

土木遺産・産業遺産の宝庫であ
る北勢線は、地方鉄道の宿命によ
り十数年前から廃線の危機に直面
しています。北勢線を廃線の危機
から守るための存続運動を支えて
きたのは地元ボランティアグルー
プ「北勢線とまち育みを考える会」
です。私は五年前に入会し阿下喜
駅前に時々出掛けて、北勢線PR
のためミニ電車の運転士として一
日何十回と小さな電車を走らせて
います。駅前には一周二百メートル
の周回レールが敷かれていて、ミニ
電車が三両と自転車を改造して鉄
輪を付けた軌道自転車計四編成
が走っています。周回レールは途
中にすれ違い区間があります。ミ
ニ電車がすれ違う瞬間に私は対向
車両に向かって少し大袈裟に手を
振ります。すると相手の電車の子
供たちと私の電車の子供たちはお
互いに大喜びで手を振り合いなが
ら電車はすれ違います。思い出づ
くりの助けになればと思っていま
す。一周回って駅に着くと子供た
ちからは「おじちゃん、ありがと
う！」と笑顔でお礼を言ってくれ
ます。こちらも「ありがとう！ま
た来てね。」と答えます。この子達
がリピーターとして北勢線に乗っ
てまた来てくれること、そして北
勢線がこの先も存続していること
を願ってミニ電車を走らせていま
す。

土木遺産とミニ電車。一見無関
係のように思えますが、私の中で
は立命館大学の四年間によって、
一本につながっています。

同窓生が続々と...



広島県支部代表幹事
福馬啓人
昭和六十一年卒

去る五月三十日(金)、早川先生
を迎えて、リーガロイヤルホテル
広島で、広島県支部第四十七回定
期総会が開催されました。そこ
で発表させていただいた、ある工
事のことです。

その工事は、大規模メガソー
ラーを建設するもので、事業主
(スポンサー)は、広島市に本社を
構える建設会社ですが、建設工事
から保険代理業、資材販売、農業
経営、日本酒製造など、幅広い多
角経営を展開している会社です。

この事業は、「世界に先駆けた
プロジェクトボンド」として経済
誌で紹介された、「債券で大規模
メガソーラーの資金調達を実現」
した国内初の事業です。

事業の構想段階から、大変に苦
心して進めてこられたのが、昭和
四十八年卒の同社取締役です(以
降先輩と表記)。

先輩とは、四、五年前から親し
くさせていただいておりましたが、
事業が具体化し、当社内で各種検
討が始まった頃は、まさか私が担
当することになるとは思っていま
せんでした。ところが縁あって、
一月から工事の現場代理人をさせ
ていただくことになりました。

事業主殿の会社には、広島県支
部事務局の要となる、平成一年卒
(経営学部)の同窓生が居られ、以
前は平成八年卒(経営学部)の同
窓生も在籍されていました。

そのうえ今年の四月からは、当
社の担当本部の本部長に、昭和
五十四年卒の執行役員が就任する
ことになりました。

今後は、昭和五十九年卒(機械)
の同窓生も関わりができるかも知
れません。同窓生が続々と...

着任のご挨拶



建築都市デザイン
学科 講師
源城かほり

いずれにせよ、馴れ合いは排除し
て、当面、七月の竣工に向けて、
真摯に努力していきます。

今春から、建築都市デザイン学
科に任期付講師として着任致しま
した源城かほりと申します。専門
は居住環境学で、居住環境の健康
性、快適性、省エネルギー性の評
価と改善をテーマとしております。
これまで十五年間、公立大学及び
国立大学法人での教員を経てまい
りました。

お茶の水女子大学大学院田辺新
一研究室(現在、早稲田大学教授)
にて博士前期課程修了後に最初に
着任した秋田県立大学は当時、新
設されたばかりの新しい大学でし
たので、設備も何もない、学生も
一年生しかない状態からの立ち
上げを初めて経験しました。学生
との年齢差がさほどないにもかか
わらず、「先生」と呼ばれることに
違和感を感じながら過ごしていた
ことを懐かしく思い出します。東
北出身の学生が多く、どちらかと
いうと大人しく素直な学生が多
かったため、指導がしやすいこと
や、周りの同僚教員も教員一年目
の方が多く、教員としての生活を
和気藹々とした雰囲気の中でス
タートできたように思います。秋
田県は言わずと知れた雪国という
ことで、主に冬をターゲットとし
た寒冷地住宅の居住環境やエネル
ギー消費量に関する調査研究に思
う存分取り組むことができました。
公立大学ということもあり、地域
に密着した研究が非常にしやすい
環境だったと思います。秋田県立
大学には十年間勤め、この間、東

着任のご挨拶



都市システム
工学科 講師
野村泰稔

させていただきたいと思ってお
ります。御指導、御鞭撻のほど、何
卒宜しくお願い申し上げます。

この春より、都市システム工学
科に着任致しました野村泰稔で
ございます。専門は応用情報学で
ございますが、現在は情報通信技術
やソフトウェアエンジニアリングを利
用した土木・建築・機械構造物の
健全性をリアルタイムに監視する
(構造ヘルスマニタリング)技術に
関する研究を行っています。

私は、二〇〇三年に関西大学大
学院総合情報学研究科博士後期課
程を修了し、その後、五年間、神
戸大学工学部市民工学科の助教
を務め、二〇〇九年より立命館
大学理工学部機械工学科の助教を
務めてまいりました。そして、前
記の通り、この春より学科を異動
し、皆様のお仲間に加えて下さる
という大変有難いご縁に恵まれた
次第でございます。二〇〇九年よ
り立命館大学にはお世話になって
おりましたが、皆様もご存じの通
り、立命館大学の研究設備・資金
獲得に向けた支援体制はすばらし
く、それに加え、先生方の研究・
教育に対する思いは大変熱く、さ
らに、学生への学修支援体制は他
大学では見られないもののように
感じます。

現在、私は構造ヘルスマニタリ
ング技術の開発に注力しております
ですが、このことを例に、これまで
情報・土木・機械領域で学んだこ
とを僭越ながら要約させて頂きま
すと、まずは対象構造をできる限
り一般化し、その中で、損傷の検
出を可能とする新しい力学的原

理・原則を導き出し(機械工学科 日下貴之教授に学んだこと)、そして、それを如何に汎用化して、巨大な社会基盤構造物に適用するか(神戸大学川谷充郎教授に学んだこと)、さらに、計測系・計測データ解析技術に関しては最新の技術動向に関して常に注目しているか(関西大学古田均教授に学んだこと)というスキームでございます。書きまよめすと、自明な事でございますが、成果を求めるあまり疎かになってしまっています。私は、まだまだ経験・知識不足の若輩者でございますが、情報・土木・機械系分野を渡り歩いた人材は世の中にそう多くないと思います。これまでの経験を、少しでも研究・教育に活かされればと存じます。

最後になりますが、この度、このようなご縁に恵まれた事に、改めまして、心より感謝申し上げます。そして、立命館大学建設会の方々をはじめ、多くの諸先輩の方々には様々な場面でお世話になるうかと存じますが、その際は、ご指導・ご鞭撻賜りたいと存じます。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



建築都市デザイン
学科 助教
加戸啓太

着任のご挨拶

この春から建築都市デザイン学科に着任致しました加戸啓太と申します。専門分野は建築構法と情報技術利用であり、現在進めている研究のキーワードとしては、コンピュータシミュレーション、三次元CAD、BIM (Building Information Modeling/Model)、伝統木造建築のデジタルアーカイブなどが挙げられます。一貫性の

ないキーワードのようにも見えますが、実は研究にあたって「建築分野においてコンピュータを活用する」という大きな方針があります。建築におけるコンピュータ利用と聞き思い浮かぶのは様々かと思いますが、近未来的な建築のデザインや設計、それ以外にも、環境や構造のシミュレーションにもコンピュータが活躍しています。私自身は、建築におけるコンピュータ利用を考える中で、コンピュータの中で建築をどのように表現するかという課題に強く興味を持っていました。建築の三次元モデルを部品の集合として構築する、あるいはそもそもコンピュータの中で部品をどのように用意すべきか、そしてそのように作成した精緻な三次元モデルをどのように活用できるか、などについて現在研究を進めています。伝統木造建築を対象として試行しているのも自身の研究の特色であります。立命館大学に就任しましたことをとても嬉しく思っています。

さて、私が担当させて頂いている講義の一つにCADでの製図や三次元モデル、CG作成に関する演習があります。私自身が三次元CADに触れ始めた当時、CADに関する講義もなく、独学でCADに触りながらですので思い通りにできないことも多かったのですが、自分の設計した建築が三次元モデルとして建ち上がっていくことに感激したのを覚えています。何かができるようになると嬉しい、そう感じられるような講義となるよう演習の題材に工夫を心掛けています。日々の活動を通して、学んだことを発展させ問題を解決する、そして何かを作り上げる喜びを学生と共有できるように頑張っています。今後共々よろしくお願ひ致します。

建設会総会・特別講演会・懇親会開催

第17回建設会総会・講演会・懇親会を下記の要領にて開催いたします。ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、万事お繰り合わせの上、多数ご参加を戴きますようお願い申し上げます。

記

【日時】2014年10月25日(土) 13時30分～19時

【場所】京都タワーホテル

[京都市下京区烏丸通七条下ル JR 京都駅正面]
[Tel. (075) 361-3212]

【会費】10,000円(平成16年卒・17年卒:5,000円)

【次第】13:30～総会 15:15～特別講演会 16:30～懇親会

- 参加申し込みは前納とさせていただきます(9月19日締切り)。
- 同封の総会専用払込票にて、郵便局よりお振り込み下さい。

※詳細につきましては、別紙のお知らせをご参照下さい。

「立命館大学理工学部びわこ・くさつキャンパス移転20周年記念事業募金」のお願い

歴史ある立命館の土木科、土木工学科は、現在、都市システム工学科、環境システム工学科、建築都市デザイン学科の、環境都市系3学科に発展し、今年は土木工学科BKC移転20周年、環境システム工学科設置20周年、建築都市デザイン学科設置10周年の節目を迎えております。これを機会に、大学では建設系の新研究棟「トリシア」が建設され、これまで分散していた3学科の教育研究が集約・充実されます。

そこで、さらに「びわこ国際人材育成推進プログラム」として、老朽化した設備・実験機器の更新と新しい機器の充実や、欧米やアジア・アフリカの途上国など、海外で活躍することができる人材育成のための学生活動をすすめて、「他大学に勝る」建設系学生の教育や研究能力の向上を目指しておられます。この目的のため、建設会としても全面的なご支援をさせていただきたく、会員各位には20周年記念募金に格段のご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

【お振込みいただく際は、同封の募金専用払込票をご利用下さい。】

事務局より

お知らせ

■会員登録データ

立命館建設会会員の皆様の名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」文書上段に記載されているデータをご確認いただき、修正や変更がございましたら8月末日までに建設会事務局までご連絡下さい。

また、今年12月初旬に「平成26年度版 建設会会員名簿」を発行予定です。

会員名簿は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきます(2年に1度の発行ですので、平成25年度、26年度分の会費納入者、ならびに終身会員に送付させていただきます)。

なお、平成25年度分の会費をまだお納めでない方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(平成25・26年度分:6,000円)を納入いただきますと、発行と同時に名簿をお送り致します。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。

2014年度会費のご納入をお願い致します(年会費:3,000円)。

また、会費ご納入につきましては「郵便局の自動振替システム」をご利用いただくこともできます。お気軽に建設会事務局までお問い合わせ下さい。

なお、銀行からのお振込も可能です(ゆうちょ銀行109(イチゼロキユウ)支店、当座0000884)。お振込の際、お手数ですが氏名の前に10桁のお問合せ番号をご記入いただくか、お名前・お問合せ番号・お振込日を下記アドレスまでご連絡下さい(振込手数料は申し訳ございませんが、ご負担願います)。

※なお、8月9日～17日まで、大学一斉休暇となります。何とぞご了承下さい。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部環境都市系事務室内(担当:山元)
TEL:077-561-4911 FAX:077-561-2667

<http://www.ritsumeai.ac.jp/se/rv/ob.html>
E-mail: kenstkai@st.ritsumeai.ac.jp
会費払込郵便振替口座: 02 大阪 01080-1-884